

釣垂^{つたる}のヒノキシダ

【昭和 37 年 4 月 19 日 県指定 天然記念物】

ヒノキシダは、森林内の湿った場所に群生するシダ植物です。その細かく裂けた葉の形がヒノキの葉に似ていることが、名前の由来と考えられています。

ヒノキシダは伊豆半島^{いずはんとう}より西の暖かい地方に分布しますが、福岡県内では産地が限られ、その個体数は減少傾向にあります。福岡県が作成するレッドデータブックでは、ヒノキシダは絶滅危惧種^{ぜつめつきぐ}に分類されており、那珂川市は貴重な群生地となっています。



安徳^{あん とく}のエノキ

【昭和 37 年 7 月 26 日 県指定 天然記念物】

安徳のエノキは下梶原^{しも かじ わら}にあり、糸島方面から大宰府^{だざいふ}に至る古道「さいふみち」の近くに位置しています。

エノキは「一里塚^{いちりづか}」として植えられることがあり、このエノキも道しるべの役割を果たしていたと考えられます。

木の根元には高さ 1.6m の「猿田彦命^{さる た ひこのみこと}」の石碑があり、それを抱きかかえるようにして立つ姿が、樹齡^{じゅ れい}の古さを物語っています。

